

単元名

いざという時のために、
自分にできることを考えよう！

単元目標

高学年という立場で身近な小さい子どもに対してできることを考え、実践しようと活動することを通して、自分たちの住む地域で自然災害が発生した時にどのような危険性があるのか理解し、いざというときに、自分の身を守り、周りの人の命を助けるために必要となる判断や行動の仕方を考えようとする。

フローチャート

(全27時間)

※○数字=時間数

1. 学ぼう BOSAI「東京消防庁・ハイパーレスキュー隊」を視聴し、災害時に自分たちにできることを考える。

2

ハイパーレスキュー隊の人たちの装備とか訓練を見て、すごく頼りになると感じたけど、それでも、救助と消火のどちらを優先するかとか、難しいことがあるんだね

自分たちにできることは、自分たちでやるのが大事だと思う。もう高学年なんだから、小さな子を連れて逃げるのなら、自分たちでもできそうだよ。

2. 小さい子を助けるための取組について、低学年の先生に相談しながら考える。

4

まずは低学年で、放課後一人の子を調べよう。住所を知らない子は、担任の先生に聞けばわかりそう。出身の幼稚園の先生にも聞いてみたら、助けられる子が増えるよ。

先生にまずは自分のことは大丈夫か考えるように言われた。校長先生には「津波てんでんこ」って言葉について調べて、もう一度考えるようにアドバイスされたよ。

3. 相談した先生方からもらったアドバイスをもとに、VTRを再度視聴しながら、自分たちにできることを見つめなおす。

4

「津波てんでんこ」って、いざという時には「一人一人が考えて行動する」ってことなんだって。東日本大震災ではそれで助かった人がいる。でも、それじゃ、近所の小さい子を助けてあげられない。

大事なのは「一人一人考えること」。「小さい子を助けにいくんだ！」って何も考えずに行動するのはすごく危険。どうやって行動すればいいのか考えるには、わからないことがたくさんあるよ。

4. 自分たちの住む地域で災害時に起こりうる危険や避難所、避難経路等について調べ、自分たちにできることを考える。

10

地震の時には、とにかく丘の上の公園に避難すれば大丈夫って思っていたけど、この地域は津波はほとんど心配なくて、それよりも火事がおこったら、火が回ってくる危険性があるんだって。

区役所の防災マップを見るといろんなことがわかるね。いざという時も大事だけど、まずはそういう時のための備えとして、今回わかったことを低学年の子にもわかりやすく伝えてあげたい。

5. 地域の危険や避難の仕方について調べてわかったことを、低学年に伝える紙芝居を作り、各クラスで発表する。

8

みんな真剣に話を聞いてくれてうれしかった。今回の発表を通して、これまでよりも低学年のみんなと仲良くなった。いざという時には、まずは自分の安全をよく考えて、それで大丈夫だと思ったら、今回仲良くなったみんなのために、勇気を出して行動したい。

本時の目標（第9時間目／全28時間）

自分たちの考えた取組が正しいか正しくないか、立場を明確に話し合うことを通して、災害時に必要な判断・行動について理解を深め、自分にできることを考えようとする。

主な学習活動	指導上の留意点
<p>1. 『津波てんでんこ』という言葉の意味について調べてきたことを確認し、小さい子を守るために取り組もうと考えていたことについて話し合う。</p> <p>・『津波てんでんこ』って、いざという時には一人一人が考えて、ばらばらに行動するっていうこと。そのおかげで東日本大震災ではたくさんの命が助かった地域がある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「いざという時には小さい子に声をかけにいく」という自分たちの考えは正しいのだろうか</p> </div>	<p>○一人一人が調べてきたことを記録した学習カードをもとに、子どもたちが理解しやすいような形で「津波てんでんこ」という言葉の意味について確認する。</p> <p>○自分たちの考えていた取組に対して、正しいと思うか、正しくないと思うか、という二つの立場を明確にしなが話し合えるよう、課題を板書で明示する。</p>
<p>2. 大きな災害時に、高学年として小さい子に声をかけに行こうとしていた自分たちの考え方について、話し合う。</p> <p>・自分たちの考えていたことは間違いだったと思う。『津波てんでんこ』で助かった命がたくさんあったけど、逆に、家族のことを心配して見に行ったせいで亡くなった方がいた、ということも知った。小さい子に声をかけにいったせいで命を失うことになったら、残された人はつらいと思うから、まずは自分の命を守るべき。</p> <p>・でも、この前「学ぼう BOSAI」を見たときに「ひとりぼっちのことを連れて逃げて」という言葉があった。実際に災害現場で思い判断をしたレスキュー隊の人の言葉だから、大事なことだと思う。</p> <p>・僕が見つけた資料では、『津波てんでんこ』って、ただばらばらに逃げるってことじゃなくて、日ごろから家族どうしていざという時の行動を話し合っておいて、信頼することが大事って意味があるって書いてあったよ。</p> <p>・それなら、助けに行くってのは間違いなのかな。</p>	<p>○互い立場を意識しながら意見をつなぐことができるよう、ミニ黒板とネームマグネットを活用し、対立する立場やそれぞれの意見の根拠、療法の立場に共通する言葉等を整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「いざという時には小さい子に声をかけにいく」という自分たちの考えは正しいのだろうか</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <正しい> <正しくない> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">N田</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">H山</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">O野</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">S木</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A原</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">K藤</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B場</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">I井</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・現場を見た人の言葉 ・自分にできること <ul style="list-style-type: none"> ・津波てんでんこ ・一人一人の判断と行動が大事 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>自分の身を守る</p> </div> </div> <p>○VTRをもとに考えた自分たちの取組に対する問題意識をきっかけとして、再度VTRを視聴する活動につなげる。</p>
<p>3. VTR後半を視聴して、ハイパーレスキュー隊の方の話やその後のナレーション等をもとに情報を収集し、話し合う。</p> <p>・「強くてほしい」と言っていたよ。やっぱり、高学年だったら近所の子どもを連れて避難してほしいって言っている。でも、大人に伝えてほしいとも言っていた。</p> <p>・「落ち着いて」と何回も言っていた。</p> <p>・「まずは自分の身を守るのが大事」と書いてあった。何か、『津波てんでんこ』について調べてわかったこととつながる部分があると思う。</p> <p>・「いざという時は小さい子をたすけに行くぞ！」って決めて行動するんじゃなくて、まずは落ち着いて自分の身を守って、その上でできることがあれば判断するのが大事。</p> <p>・「強くてほしい」というの、ちゃんと落ち着いて判断できるように、いろんなことを知って準備しておくことだと思った。</p>	<p>○ハイパーレスキューの方の「ひとりぼっちの子がいたら一緒に連れて逃げてほしい」という言葉について、具体的な行動としてだけでなく、その言葉の裏にある意図や思いに気付けるよう、scene09～10を視聴する時間を設定する。必要に応じて繰り返し視聴したり、文字情報をもとに情報を収集できるよう該当部分のあらすじを配布したりする。</p> <p>○「小さい子を助けに行く」「一人一人がそれぞれで逃げる」という行動ではなく、その場でどうすべきか判断することの重要性に気付いている子どもの発言を取り上げ、全体に返していく。</p>